学びのひろば旭

vol.61

旭市教育委員会
庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

茅野市の児童と交流を深める

旭市と長野県茅野市は、昭和49年から姉妹都市として40年以上もの間、交流を深めています。

姉妹都市の児童同士が交流を深めるため、平成23年度から「旭市・茅野市児童交流事業～山と海をつなぐプロジェクト～」を行っています。隔年で旭市と茅野市を交互に訪れており、今年度は７月31日から８月２日までの２泊３日の日程で、中央小・琴田小・干潟小の５年生33人が市の代表として茅野市を訪問しました。

縄文文化にふれる貴重な体験

尖石（とがりいし）縄文考古館では、縄文式土器でも年代によって違いが見られることや、茅野市から出土した二つの国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」の特徴をくわしく聞くことができました。自然の森では土鈴作りを体験しました。粘土を使って丁寧に形を作る作業に取り組みました。まだ歴史のくわしい勉強をしていない５年生の児童たちは、この見学や体験を通して縄文時代への興味や関心が大いに高まったと思います。

自然の雄大さに感動

北八ケ岳では、私たちを八ケ岳連峰の山々が出迎えてくれました。ロープウエーの山頂駅から続く坪庭散策路は標高2,200m以上あるにもかかわらず、ちょっと歩いただけで汗ばむほどのいい天気でした。溶岩が固まりごつごつとした岩肌に注意をしながら歩きました。そして遠くを見渡すと、日本アルプスの山々が連なっていました。どこまでも続く山々と青い空を見上げながら、海とは違った自然の雄大さを感じることができました。

北八ケ岳展望台で記念撮影

仲間との触れ合いで友好関係を築く

茅野市リーダースクラブとの交流活動では、初めて出会う茅野市の友だちに、最初は戸惑いを感じていましたが、ウオークラリーやダンス練習、夕食のカレー作りを行う中で、親しく話す友だちが一人、また一人と増えていきました。夕闇が迫る中で始まったキャンプファイアでは、まさしく夜空を焦がすほどの大きな炎のゆらめきを前に、仲良くなった友だちと一緒に心を通わせてダンスを踊りました。今後も両市の児童が互いの歴史、文化、自然に触れ合うとともに、交流を通して親睦と友情を深め、姉妹都市として一層の友好関係を築いていくことができればと思います。今回参加した児童33人の経験が、その一助となることを確信しています。

あさひ輝いた人々

第２回

椿海（つばきのうみ）干拓の功労者

鉄牛（てつぎゅう）（1628～1700年）

鉄牛は椿海干拓に際し、江戸幕府と三元締（辻内刑部左衛門、野田市郎右衛門、栗本源左衛門３人の呼称で、現場監督のような人たち）のパイプ役になり、工事を完成させ、干潟八万石の基を築いた功労者といわれています。寛永５（1628）年長門（ながと）国（今の山口県）で生まれ、15歳で出家し慧覚（えかく）と号（ごう）し、明暦元（1655）年隠元（いんげん）に学んで、黄檗宗（おうばくしゅう）の僧侶となりました。

椿海は辻内刑部左衛門が排水路や資金難の問題で一度失敗し、再び江戸幕府の開発許可を願いましたが、なかなか許可になりませんでした。そこで辻内は、江戸幕府老中稲葉正則の信頼が厚い、江戸瑞聖寺（ずいしょうじ）の鉄牛に力を貸してくれるようにお願いしました。鉄牛が力を尽くしたおかげで椿海干拓は再び許可され、椿海の水を排水することで見事な水田となりました。

その後、人々が移り住み18の村ができましたが、それに連れて、村人のよりどころとしての寺や神社が必要になってきました。そのため３つの神社と５つの寺ができましたが、そのうち３つの寺は黄檗宗の寺（鎌数村広徳寺・小南村福聚寺（ふくじゅうじ）・春海（はるみ）村修福寺）であり、椿海干拓に尽力した鉄牛の力の大きさが分かります。

元禄12（1699）年鉄牛は福聚寺に住まいを移し、干拓地を見守りながら、元禄13（1700）年に亡くなりました。

鉄牛墓の堂